

# 救援医師が帰国

サハリン

三宅さん「道筋はつくれた」

サハリン大震災の医療救  
援に当たっていた民間医療  
ボランティア「アジア医師  
連絡協議会」(AMDA)  
の三宅和久医師(三)が六日  
午後、東京から岡山空港に  
到着した。

岡山市櫛津の本部事務局  
に、三宅医師が姿を見せる  
と、事務処理に追われるメ  
ンバーらが仕事の手を休め  
て駆け寄り、「お帰りなさい  
い」「お疲れさまでした」  
と声を掛けた。三宅医師は

ちよつと照れたよつに頭を  
かきながら、後方支援して  
いたメンバーの温かい出迎  
えを受けた。

第一陣は情報収集と人間  
関係の形成という役目を負  
っていた。三宅医師は「役  
所の手続きが煩雑で、苦勞  
しましたが、現地の人たち  
の協力で助かりました。一  
つの道筋を作れたので、こ  
れからはもっとスムーズに  
いくのでは」と満足そうに  
話した。

今後の課題としては「医  
師は多くいるので、医薬品  
などの物資を適切に活用す  
るためのコーディネーター  
(調整役)が必要になる」  
と述べた。八日からはずぐ  
に通常の業務に戻る。「七  
日中に報告書を書かなけれ  
ば」と休む間はなさそうだ  
が、「いつも睡眠時間は三  
時間ぐらいたから」と笑顔  
を見せた。